

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
一 わたしはふしぎでたまらない ふしぎ	2	○『ふしぎ』の魅力やおもしろさについて考え、互いに発表し合う。	事象や行為、心情を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。	「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。	すすんで文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えを確かなものにし、学習課題にそって考えたことを伝え合おうとしている。
桜蝶	4	○『桜蝶』AとBの構成や展開の違いと読み手に与える印象の違いとの関わりを捉え、物語と小説の違いや小説を読む時にどのような点に注目すべきかについて自分なりに考えたことを発表し合う。	事象や行為、心情を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。	「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写(特に二つの文章の描かれ方の違い)をもとに捉えている。	粘り強く二つの文章を読み比べながら、場面と描写などを結びつけて内容を解釈し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。
お気に入りの一品を紹介する	2	○話す内容と項目を決め、スピーチ用のメモを作成したあと、各自で練習をする。 ○第1時の練習を踏まえて思いを効果的に伝えるための工夫を考え、ペアでスピーチを聞き合い、よかったところを伝え合う。	事象や行為、心情を表す語句の量を増し、話の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。	「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中からお気に入りの一品について話題を決め、集めた材料を整理し、伝える内容を検討している。	すすんで日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理して伝える内容を検討し、学習課題にそって伝え合おうとしている。
文法の小窓1 言葉の単位	2	○文節と単語について理解したあと、『文法の小窓1』のアキとハルの最後の台詞に注目させる。	単語の類別について理解するとともに、指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。		積極的に言葉の単位について理解するとともに、見通しをもってその役割を考えようとしている。
二 これは脳がもともと持っている癖です 自分の脳を知っていますか	5	○「おとり効果」と呼ばれる現象には、脳のどのようなはたらき関わっているのかを考え、「脳の奇妙な癖」について理解する。 ○「脳の奇妙な癖」について「おとり効果」の有効な点と問題点を整理する。 ○文章にまとめたものを生徒どうしで読み合い、相互評価する。	原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。	「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述をもとに筆者の考えを捉え、要旨を把握している。	粘り強く文章の要旨を把握し、学習課題にそって筆者の考えをまとめようとしている。
資料から得られた根拠をもとに 意見文を書く	6	○自分が取り上げた話題について調査した資料を比較して、共通点や相違点を整理する。 ○生徒どうしで書いたものを交流し、資料の読み取りや構成の工夫について確認し合う。	比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。	「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように複数の資料を比較するとともに、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。	すすんで情報の整理の仕方について理解し、学習課題にそって共通点や相違点を根拠にしながらかれたことを書こうとしている。

令和3年度 評価規準(例)

学校名: 江戸川区立葛西第三中学校

漢字の広場1 漢字の部首	1	○「部首」という概念を理解し、漢字の「部首」を確認したり、「形」から「義」や「音」を類推したりする。	学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち本教材で示された漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されているうちの漢字を書き、文や文章の中で使っている。		積極的に漢字を読み、または漢字を書くとともに、今までの学習を生かして文や文章の中で使おうとしている。
言葉の小窓1 日本語の音声	2	○「アクセント」「イントネーション」を変化させることによって、どのように意味が変わるのか、またそれによってコミュニケーションにどのような影響が出るのか考える。	音声のはたらきや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア		積極的に音声のはたらきや仕組みを理解し、学習の見通しをもって日本語の音の特徴について理解を深めようとしている。
内容を整理して説明する	4	○「未来の自分がどうありたいか」を具体的にイメージし、その過程でどんなことで迷ったり悩んだりするかを考える。その悩みを乗り越えるような「名言」や「印象深い言葉」の情報を集める。	比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。	「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように話す内容や順番などの表現を工夫している。	粘り強く相手の反応を踏まえながら表現を工夫するとともに、学習課題にそって伝えたいことを話そうとしている。
三 夜、僕はもう、ヘルガの夢ばかり見たベンチ	5	○作品を読み、「ベンチ」の表す状況を捉えて、自分なりの課題をもつ。 ○効果的な表現を考えながら、作品のポップや帯を作成する。	読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。	○「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。	すすんで読書が考えを広げることに役立つことを理解し、学習の見通しをもって考えたことを提案しようとしている。
全ては編集されている	2	○「写真を組み合わせる順序を考える」を使い、短い物語を完成させる。	比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。	○「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。 ○「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約したり場面と場面、場面と描写などを結びつけたりして、内容を解釈している。	情報の扱い方についての理解を深め、目的に応じて適切に情報を読み取り、伝えたい情報を明確に表現しようとしている。
漢字の広場2 画数と活字の字体	1	○実際に文字を書き記すための基準となる「教科書体」の活字に着目し、正確な画数と字形に基づいた文字を書く態度を身につけるとともに、画数をもとに漢和辞典の総画索引や部首索引を使用する方法を練習する。	学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち本教材で示された漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されているうちの漢字を書き、文や文章の中で使っている。		積極的に漢字を読み、または漢字を書くとともに、今までの学習を生かして文や文章の中で使おうとしている。
材料を整理して案内文を書く	5	○案内文の構成を考え、相手や目的を意識しながら案内文を書く。	比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。	「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。	すすんで集めた情報を整理し、学習の見通しをもって案内文を書こうとしている。

令和3年度 評価規準(例)

学校名: 江戸川区立葛西第三中学校

<p>四 森と川と海は一つなのだ 持続可能な未来を創るために</p>	<p>3</p>	<p>○『「エシカル」に生きよう』を読み、「次の『問い』』について話し合う。 ○話し合いを踏まえて、「最後の『問い』』について自分の考えを書く。</p>	<p>原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。</p>	<p>○「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。 ○「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。 ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。</p>	<p>粘り強く自分の考えを確かなものにするとともに、今までの学習を生かして本や資料をもとに考えを深めようとしている。</p>
<p>森には魔法使いがいる</p>	<p>5</p>	<p>○「森と川と海は( )なのだ。」のような表現を用いて、自分の考えを根拠を明確にして書く。</p>	<p>原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。</p>	<p>○「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果(特に論理の構成)について、根拠を明確にして考えている。 ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。 ○「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の</p>	<p>粘り強く文章の論理の展開について考え、学習課題にそって文章を読んで考えたことをまとめようとしている。</p>
<p>文法の小窓2 文の成分</p>	<p>3</p>	<p>○主語・述語以外の文の成分には修飾語・接続語・独立語があることを理解する。 ○並立の関係・補助の関係について理解する</p>	<p>文の成分の順序や照応など文の構成について理解を深めている。</p>		<p>すすんで文の構成に興味・関心を抱き、文の成分の種類とはたらきを理解して、文の構成について理解を深めようとしている。</p>
<p>根拠を明確にして意見文を書く</p>	<p>5</p>	<p>○選んだテーマについて根拠を考えたり、資料を探し、根拠を明確にして自分の考えを書く。 ○書いた文章を生徒どうしで読み合い、根拠を確認し合う。</p>	<p>原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。</p>	<p>「書くこと」において、根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。</p>	<p>すすんで根拠が明確な文章になるように工夫し、学習課題にそって自分の考えたことを書こうとしている。</p>
<p>広告の情報を考える</p>	<p>2</p>	<p>○広告の「工夫」について考える。教科書P103の広告にどのようなメッセージがこめられているかを考える。P104の広告を比べて、広告を構成する要素を具体的にあげ、共通点や相違点を整理し広告の「工夫」について理解を深める。</p>	<p>比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。</p>	<p>○「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。 ○「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して、内容を解釈している。</p>	<p>積極的に関係づけなどの情報の整理の仕方について理解を深め、学習の見直しをもって伝えるべきことを整理して書こうとしている。</p>
<p>五 今は昔、竹取の翁といふ者ありけり 昔話と古典／物語の始まり</p>	<p>5</p>	<p>○古典の仮名遣いに注意して川柳を読む。昔話を讀んだり聞いたりした経験を話し合い、古典の世界に興味・関心をもつ。 ○現代語とは違う意味で用いられている語や、現代語ではあまり用いられない語、現代語と同じ意味の語をあげ、古典の言葉と現代語のつながりについて考える。</p>	<p>古典には様々な種類の作品があることを知っている。</p>	<p>「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写をもとに捉えている。</p>	<p>昔話に関する知識を手がかりに本文をすすんで読み、新しく知ったことについて話し合いの場で発言しようとしている。</p>

故事成語	3	○『矛盾』と『助長』の書き下し文をノートに書き写したり音読したりして漢文訓読のきまりを理解する。	音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、漢文を音読し、古典特有のリズムをとおして、古典の世界に親しんでいる。	「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写をもとに捉えている。	すすんで音読に必要な訓読の仕方を知り、学習の見通しをもって文章を読んで考えたことを伝え合おうとしている。
蜘蛛の糸	3	○近代小説についての紹介文を書き、意見を交換する。	読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。	「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写をもとに捉えている。	すすんで読書が考えを広げることに役立つことを理解し、今までの学習を生かして考えたことを伝えようとしている。
六 白象は寂しく笑ってそう言った 河童と蛙	2	○オノマトペの効果について理解し、詩の登場人物の役割を捉え、作品の世界を生かすように朗読する。	事象や行為、心情を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うこととともに、擬声語・擬態語への理解を深めることをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。	「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写をもとに捉えている。	すすんで表現の技法を理解するとともに、詩を読んで考えたことを伝えようとしている。
オツベルと象	7	○「第一日曜」「第二日曜」と「第五日曜」では、牛飼いの語り方が変化していることを踏まえ、牛飼いがどのような気もちでこの物語を語ったのかを考える。 ○『オツベルと象』についてグループごとに感想を述べ合い、交流したうえで、発表する。	事象や行為、心情を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うこととともに、擬声語・擬態語への理解を深めることをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。	粘り強く表現の効果について根拠を明確にして考えるとともに、作品を読んで考えたことを伝え合おうとしている。
随筆を書く	4	○読み手をひきつけるような文章の展開を考える。教科書P165を読み、随筆にふさわしい表現があることを理解したうえで、最も適切な言い回しを意識しながら随筆を書く。	事象や行為、心情を表す語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。	「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えている。	粘り強く叙述の仕方などを確かめ、学習の見通しをもって随筆を書こうとしている。
言葉の小窓2 日本語の文字	1	○日本語を書き表す文字の特徴について理解する。	学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。		積極的に漢字を読み、または漢字を書くとともに、今までの学習を生かして文や文章の中で使おうとしている。
七 子どもは一人の人間として、大人と同じように権利をもっています 子どもの権利	4	○本文の展開を確認し、筆者の説明の仕方を理解し、筆者の主張を踏まえたうえで、知識を学ぶことや教育を受ける権利について考えたことを話し合う。	事象や行為を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。	○「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 ○「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えている。	粘り強く自分の考えを確かなものにするとともに、学習課題にそって考えたことを伝え合おうとしている。

令和3年度 評価規準(例)

学校名: 江戸川区立葛西第三中学校

調べた内容を聞く	3	○教科書P181の報告例を参考にして、グループの考えをまとめる。他のグループの報告を聞き、共通点や相違点を見つけて質問する。○グループの考えをまとめ、考えがどのように変わったかを考える。	事象や行為、心情を表す語句の量を増し、話の中で使うこととおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。	「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。	積極的に共通点や相違点を踏まえて考えをまとめ、学習の見直しをもって報告を聞いて質問しようとしている。
漢字の広場3 漢字の音と訓	1	○漢字がそれぞれにもつ「音」と「訓」、二つの読み方の違いに注目させ、その使い分けや留意すべき特質について理解を深め、練習課題を通じて知識の定着を図る。	学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち本教材で示された漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されているうちの漢字を書き、文や文章の中で使っている。		積極的に漢字を読み、または漢字を書くとともに、今までの学習を生かして文や文章の中で使おうとしている。
八 ここでもまた、技術を受け渡していくのは、言葉なのである 言葉がつなぐ世界遺産	5	○本文中で人物の語りが「」の形で引用されていることは、どのような効果をもたらしているかを考える。『参考 地域から世界へ』をあわせて読み、日本の伝統的な文化や技術について考える。	原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。	○「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。	粘り強く理解したことに基づいて考えを確かなものにし、文章を読んで考えたことを記録しようとしている。
読み手を意識して報告文を整える	4	○図表から読み取れることなどを中心に報告文を書く。○推敲して完成させる。完成した報告文を生徒どうして読み合う。	原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。	○「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えている。	積極的に読み手の立場に立って叙述の仕方などを確かめるとともに、学習の見直しをもって自分の考えを書こうとしている。
文法の小窓3 単語のいろいろ	3	○活用のある単語と活用のない単語の区別を理解したうえで、文の中でののはたらきによって十の品詞に分けられることを理解する。 ○品詞分類表によつての品詞分類の全体像を把握し、具体的な文例に即して言葉を分けて考えることの大切さを理解する。	単語の類別について理解するとともに、指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。		すすんで単語の類別について理解を深め、今までの学習を生かして言葉を分けて考えることの大切さを理解しようとしている。
発言を結びつけて話し合う	4	○話し合いの例を参考にして、言葉の意味をどのように定義するかグループで話し合う。 ○第2時のグループの話し合いを深め、さまざまな意見を整理して言葉の定義を決める。	原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。	「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめている。	すすんで互いの発言を結びつけて考えをまとめ、学習の見直しをもってそれぞれの立場から考えを伝えようとしている。
漫画で「物語」を表現する	2	○教科書P226下段とP227を読み、漫画の「工夫」について理解する。 ○漫画のコマの並び方の効果を確かめる。P229の漫画の絵柄や言葉と比較し、作品の解釈や読み手への意識と漫画の絵柄や言葉との関係について考える。	比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。	「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結びつけたりして、内容を解釈している。	積極的に関係づけなどの情報の整理の仕方について理解を深め、学習の見直しをもって伝えるべきことを整理して書こうとしている。

漢字の広場4 熟語の構成	1	○複数の漢字を組み合わせて作り出される言葉を「熟語」と呼ぶことを確認し、身近な例を取り上げ、構成法によって意味や内容が大きく変わること気づかせる。教科書にあげた構成法の各型に関する理解を深める。三文字以上の熟語の構成法についてグループ学習で確認する。日常生活の中から七つの型にあてはまる熟語を探	事象や行為、心情を表す語句の量を増すと同時に、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。		積極的に漢字を読み、または漢字を書くとともに、今までの学習を生かして文や文章の中で使おうとしている。
九「そうか、そうか、つまり君はそういうやつなんだな。」四季の詩	2	○それぞれの詩のイメージを想像し、どのような季節感が描かれているか話し合う。	比喻、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。	○「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写をもとに捉えている。 ○「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えている。	すすんで描写をもとに捉えるとともに、今までの学習を生かして詩を創作しようとしている。
少年の日の思い出	7	○「僕」と「エーミール」のチョウに対する考え方の違いを捉え、「エーミール」に対する心情の変化をノートにまとめる。○「エーミール」の部屋を訪ねた時の「僕」の心情の変化を捉え、盗みを犯した理由を考える。○「自分の考えを伝え合おう2」の課題について話し合いながら考える。	事象や行為、心情を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。	○「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係(特に語りと構成について)、また心情の変化などについて、描写をもとに捉えている。 ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。	粘り強く登場人物の心情の変化などについて捉えるとともに、見通しをもって小説を読んで考えたことを伝えようとしている。
言葉の小窓3 方言と共通語	1	○「方言と共通語の使い分け」を読み、「考えてみよう」(2)で調べたことを踏まえて、方言と共通語の使い分けについて考える。	共通語と方言の果たす役割について理解している。		すすんで共通語と方言について調べ、学習の見直しをもって共通語と方言の果たす役割について理解しようとしている。